



峰棚田



菅棚田



白糸台地

## 2日目(20日)は現地見学会

棚田を守る人々が心を入れておもてなし

旧中島南部小学校をスタートして峰棚田を見学。サミットを記念した植樹や、竹の器で提供された昼食が参加者に好評でした。



集落内を地域の方がガイドします。棚田のあぜ道を歩くコースもありました。さらにオーナー制度実施中の棚田も見学しました。



円形分水から始まる通潤用水を実際に見学したあと、白糸台地が一望できる場所を歩きました。途中、地域の方が制作したユニークなかかしが出迎えました。



次回のサミットは和歌山県有田川町です

# みなで つれもてきてよ〜

第19回全国棚田(千枚田)サミット  
2013年11月8日・9日

### 来年は和歌山県有田川町で

20日の午後は閉会式。分科会のまとめ発表のあと、共同宣言です。来春、夫婦揃って就農される坂本安駿さん、真由美さんが、「先人たちが育んだこの棚田を次世代に引き継いでいきます。」と宣言しました。そして最後に実行委員長である甲斐町長の言葉で、2日間に及ぶサミットは終了しました。来年は和歌山県有田川町での開催が決定しています。次の再会を約束して参加者は会場を後にしました。

↓共同宣言を読み上げた、坂本安駿さん・真由美さん。農作業服と長靴、麦わら帽子という、就農への思いが表れた衣装で登壇、参加者へ向け力強く宣言しました。



## 日本の原風景

### 棚田を子どもたちへ

10月19日と20日の2日間、第18回全国棚田(千枚田)サミットが山都町で開かれ、全国からのべ1000人が参加しました。



## テーマ

# 子どもたちへ残そう地域の宝

～地域が育み続ける棚田の文化と景観～



矢部小による「棚田へ行こう」の合唱

10月19日、町営中央体育館で始まった「第18回全国棚田(千枚田)サミット」。会場には約600人の参加者が集い、熱気あふれる開会となりました。このサミットには、北は北海道から南は鹿児島まで、全国各地からのべ1000人が参加。天候にも恵まれた2日間でした。開会式前のオープニングアトラクションでは、矢部小学校児童による「棚田へ行こう」の合唱と、矢部小1・2年生によるくまモン体操が披露されました。くまモン体操にはサプライズゲストとしてくまモンも登場しました。開会式の後には、熊本大学の吉村豊雄教授による基調講演、そして、菅地域



吉村豊雄教授の基調講演

振興会の渡邊正弘代表と、白糸第一自治振興区女性部の下田美鈴部長による、事例発表が行われました。事例発表の後には、4つの分科会と首長会議に分かれて、それぞれのテーマについて議論されました。(6ページに記載)分科会の終了後、中央体育館で「全体交流会」が行われました。全国から参加者との交流が目的で、参加した約500人が再会や新たな出会いを楽しみました。交流会の料理は、山都町飲食業組合の皆さんが腕によりをかけてつくったもの。しし汁やヤマメの塩焼きなど多彩な料理でもてなしました。ステージでは矢部太鼓と高畑年祢神社田植え踊りが会場を盛り上げました。20日午前中は、現地見学会です。棚田百選に選ばれた「菅棚田」と「峰棚田」、そして、重要な文化的景観の選定を受けた白糸台地の棚田の3つのコー



事例発表した下田さん(左)と渡邊さん(右)



スに分かれて、日本の原風景といえる棚田を見て、そこに住む方々の暮らしなどの語りを聞きました。3つの地域の方々は、この日に向けて準備を重ね、それぞれに特徴のあるもてなしをしました。地域ガイドや案内図には、その気持ちが届けられていました。現地での昼食は、それぞれの地域内産物を活かした特製弁当などで、さらに参加者をもてなしました。この大会は、飲食業組合の方々や菅・白糸第一地区のみなさんをはじめ、多くの方々にボランティアとして協力していただきました。矢部高校や矢部中学校の生徒、熊本大学の学生の助けもありました。また、この大会は、全国モーターボート競走施行者協議会からの拠出金を受けて実施されました。